

1. 科目名 (単位数)	精神保健福祉実習指導 I (2 単位)		3. 科目番号	SCMP2183
2. 授業担当教員	三野 宏治			
4. 授業形態	講義、演習、討論		5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係				
7. 講義概要	<p>精神保健福祉実習指導 I は、実習指導 I、II、III と精神保健福祉実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。</p> <p>精神保健福祉実習指導 I では、専門職養成における実習の意義、法的な位置づけ、どのように実習が展開されるのかという基本的学習を中心として、次年度に行う実習に必要な知識を学習する。</p>			
8. 学習目標	<p>精神保健福祉実習指導 I が終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。</p> <p>①精神保健福祉士実習の意義について理解する。</p> <p>②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。</p> <p>③実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができる。</p> <p>④資格取得に対する動機を明瞭に説明できる。</p> <p>⑤個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。</p>			
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	<p>課題 1: 資格取得に対する自身の動機についてまとめる。</p> <p>課題 2: 実習配属施設・機関に関して、その関連法令、規定されたサービス内容等施設・機関の概要についてまとめる。</p>			
10. 教科書・参考書・教材	<p>【教科書】 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク実習指導・実習 (精神保健福祉専門)』中央法規出版 東京福祉大学『精神保健福祉実習の手引き』 ※講義にて配布 東京福祉大学『社会福祉士・精神保健福祉士実習 学習の手引き』※講義にて配布</p> <p>【参考書】 精神保健医療福祉白書編集委員会編集『精神保健医療福祉白書』中央法規出版</p>			
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <p>①精神保健福祉士実習の意義について理解できているか。</p> <p>②精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解できているか。</p> <p>③実習施設・機関の概要について明瞭な説明ができるか。</p> <p>④資格取得に対する動機を明瞭に説明できるか。</p> <p>⑤個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解できているか。</p> <p>○評定の方法</p> <p>1. 授業中に課されるレポート 40%</p> <p>2. 実習配属に伴う提出物 20%</p> <p>3. 授業への積極的参加態度 40%</p>			
12. 受講生へのメッセージ	<p>本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 <p>教員は以下のことを実行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするとともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 <p>遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。</p>			
13. オフィスアワー	別途通知する			
14. 授業展開及び授業内容				
講義日程	授業内容		学習課題	
第 1 回	<ul style="list-style-type: none"> ・精神保健福祉実習指導 I のねらい、講義の進め方についての説明 ・精神保健福祉実習と精神保健福祉実習指導における個別指導及び集団指導の意義の説明 ・実習の流れの理解と実習に関する基本的ルールの確認 		事前学習	実習で学びたいこと言語化する。
			事後学習	「実習の手引き」の実習の流れを再確認し、実習の時期、日程等理解する

第2回	専門職養成における実習の意義の理解	事前学習	テキストの該当ページを熟読する
		事後学習	授業で学んだことをまとめる
第3回	専門職としての記録の意義と実習記録への記録内容と記録方法に関する理解	事前学習	テキストの該当ページを熟読する
		事後学習	実習記録を模擬的に作成し提出する
第4回	精神保健福祉士を目指す自己の動機の明確化	事前学習	テキストの該当ページを熟読する
		事後学習	課題1の作成
第5回	事前学習の意義の理解 精神保健医療福祉に関する知識①：精神保健医療福祉の歴史と現状、利用者理解に対する理解	事前学習	テキストの該当ページを熟読する 該当項目について復習する
		事後学習	授業での新たな学びと気づきをまとめる
第6回	精神保健医療福祉に関する知識②：主な精神疾患についての知識の確認、精神保健医療福祉関連の制度の確認	事前学習	該当項目について復習する
		事後学習	授業での新たな学びと気づきをまとめる
第7回	精神保健医療福祉に関する知識③：実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的技術に関する理解	事前学習	テキストの該当ページを熟読する
		事後学習	授業での学びと気づきをまとめる
第8回	精神保健医療福祉に関する知識④：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解	事前学習	テキストの該当ページを熟読する 該当項目について復習する
		事後学習	授業での新たな学びと気づきをまとめる
第9回	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解：精神保健福祉士法、個人情報保護法の理解	事前学習	テキストの該当ページを熟読する
		事後学習	授業での新たな学びと気づきをまとめる
第10回	実習先施設・機関の基本的理解①：実習が可能な施設・機関紹介と説明（「実習の手引き」使用）：実習先を理解する意義と理解すべき内容の把握（施設・機関・事業者・団体・地域社会等を含む）※第10回～13回において、外部機関の見学や外部講師を招聘し、当事者の体験に触れる体験、現場体験学習を実施する。	事前学習	テキストの該当ページを熟読する
		事後学習	課題2の作成 体験学習実施の場合は体験学習実施に向けての準備
第11回	実習先施設・機関の基本的理解②：医療機関	事前学習	該当項目について調べる
		事後学習	授業での新たな学びと気づきをまとめる
第12回	実習先の理解③：障害福祉サービス事業所・行政	事前学習	該当項目について調べる
		事後学習	授業での新たな学びと気づきをまとめる
第13回	実習先の配属：配属先実習施設・機関に関する情報収集、誓約書・個人調書等書類の作成	事前学習	資格取得動機、学びたいことを言語化する
		事後学習	必用書類の作成
第14回	見学実習（事前訪問）に向けた準備：見学実習（事前訪問）の目的と意義の確認、基本的態度と訪問時の注意事項の確認	事前学習	配属先施設・機関についての情報をまとめる
		事後学習	見学実習に向けての準備
第15回	見学実習（事前訪問）の総括 学習のまとめ 精神保健福祉援助実習指導Ⅱに向けた課題	事前学習	見学実習報告書を作成する 見学実習に対するお礼状を作成する
		事後学習	精神保健福祉援助実習Ⅰで学んだことを振り返る